

「看護学生を対象にしたデジタルアートを活用したケアイノベーション  
授業の評価」へご協力いただく方への説明書

この研究は東京医科歯科大学統合教育機構倫理審査委員会の審査・承認を受けています。

(1) 研究の概要について

研究題名：看護学生を対象にしたデジタルアートを活用したケアイノベーション授業の評価

承認番号： 第 C2022-052 番

研究期間：統合教育機構倫理審査委員会承認後から 2025 年 3 月 31 日

実施責任者：

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科ヘルスサービスリサーチ看護学  
准教授 森岡典子

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

電話：03-5803-5306

(2) 研究の意義・目的について

世界に先駆けて少子高齢化が進む我が国において、国民の健康増進や切れ目のない質の高い医療・看護・介護を提供するためには、限られた財源・人的資源を有効活用すべく、医療分野のデジタル化を進め、保健・医療情報（介護含む）の利活用を積極的に推進していくことが非常に重要です。また、今般の新型コロナウイルス感染症流行への対応・看護師不足の課題を踏まえ、看護業務にデジタル技術を結び付けることによるケアイノベーションや従来の対面・集合型を前提とした看護学教育のあり方を見直した教育のデジタルトランスフォーメーションの推進の必要性がさらに加速しています。

現在展開されている看護の臨床実践に向けたケアイノベーションの例として、ポータブルエコーの活用、音声・画像データやセンシングデータによる看護記録の自動記録化、デジタルアートのリハビリテーションや精神的ケアへの活用が試行的に行われています。看護教育においては、プロジェクションマッピングを用いた手技習得、Augmented Reality (AR) や Virtual Reality (VR)を用いたフィジカルアセスメント手技習得、モーションキャプチャを用いた基礎看護技術の習得など、産業界における商品開発の点からも推進されています。

このように、我が国の現状・将来を見据えたケアイノベーションによる新たな看護技術の取組みが注目、進められているところです。研究者らは、このような社会背景のもと、本学医学部看護学専攻2年次に展開している基礎看護学演習Ⅱにおいて、デジタル技術を活用した新たな看護ケア技術として、デジタルアートを用い、言語障害のある患者の発声を促す看護介入の実践(デジタルアート制作、患者役としての体験および看護師役としての実践ロールプレイ)を2022年度授業に試行的に取

り入れました。授業では、脳出血事例に対する発声訓練という看護介入について、cables というプログラミングを用いて実際にデジタルアート（検出した音量によりキューブの大きさが変化するようなもの）を制作し、病床環境において患者役・看護師役双方をロールプレイにより体験しました。このようなケアイノベーションに関する実技演習を基礎教育の段階で取り入れた取り組みについての報告はなく、本邦で初めての取組といえます。この新たな取り組みについて、実践報告ならびに効果検証として国内学会で発表を予定しています。今後、看護においてケアイノベーションを創出するための基礎教育の段階からの先進的な取り組みとして、有益な情報を提供できると考えられます。

### （3）研究の方法について

本研究では、下記授業実施後の学生による授業評価アンケート結果（参加者 50 名のうち、同意を得られた 48 名分の回答）について、万読度割合等の集計や自由記述の分析を行います。

#### 1) デジタルアート制作・体験の概要

- ・日時：2022 年 12 月 13 日 13:10-17:00
- ・科目名：基礎看護学演習Ⅱの一環
- ・対象：本学医学部看護学専攻 2 年生 54 名（授業出席者は 50 名）
- ・実施者：吉岡 純希（株式会社 NODE MEDICAL）
- ・実施内容：
  - ①デジタルアートならびにケアイノベーションに関する講義
  - ②デジタルアート製作（グループワーク）
  - ③病床環境でのデジタルアート体験（看護師役、患者役を交互にロールプレイ）
  - ④ケアイノベーションに関するまとめの講義

#### 2) 授業評価

- ・授業終了後に、Google フォームを用いた完全匿名での Web アンケートを実施。
- ・調査実施期間：2022 年 12 月 13 日 17:00（授業終了後）～12 月 16 日 12:00
- ・調査項目：授業満足度、ケアイノベーションと看護過程の関連の理解度、授業の感想（自由記述）等

#### 4) 結果の公表予定

- ・日本看護管理学会学術集会（2023 年 8 月 25 日開催予定）等にて発表を行う予定です。

### （4）試料等の保管と、他の研究への利用について

- ・試料・情報・記録等の保管場所：電磁的に得られた回答データは、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護ケア技術開発学研究室 3 内の鍵付きの棚にパスワードをかけた外部記録装置に保存します。
- ・保管責任者（常勤教職員）：森岡典子
- ・保存期間：本学規定 10 年

- ・廃棄方法：外部記憶装置を再現できないように処理を行い、機械的に破棄するなど適切な方法で行います。
- ・二次利用を行う可能性があります。二次利用の際には、改めて倫理審査委員会に申請して許可を得ます。

(5) 予測される結果（利益・不利益）について

本研究に関連する不利益・危険性はありません。

(6) 研究協力の任意性と撤回の自由について

研究への参加は個人の自由意思であり、調査に協力しない場合でもいかなる不利益を被ることはありません。アンケートへの回答時に、同意のチェックをしていただき、ご回答をお願いしておりますが、こちらへのチェックをもって同意をいただいたと判断いたします。なお、アンケートは完全に匿名化されているため、事後の撤回は不可能にしております。既にアンケート回答時に、同意を得ていますが、今回あらためて研究計画の詳細を公示し、質問があれば回答致します。

(7) 個人情報の保護について

アンケートには、名前、学籍番号など個人が識別できる項目は含まれておらず、完全匿名データです。ただし、匿名アンケートではありますが、自由記述欄に個人を識別可能な情報が含まれていた場合は解析に際してその部分は削除します。

(8) 研究成果の公表について

日本看護管理学会学術集会（2023年8月25日開催予定）をはじめ、国内外の関連学会、学術雑誌で公表します。また、商業誌などへの研究成果の解説を寄稿することを予定しています。完全匿名データではありますが、自由記述欄に個人を識別可能な情報が含まれていた場合は解析に際してその部分は削除します。写真データについても、個人の顔や名札などは墨消し対応を行い、個人が特定できないように加工致します。

(9) 費用について

この調査に参加していただくにあたり、経済的ご負担、および謝礼などはありません。

(10) 研究資金および利益相反について

本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、確認を受けています。

(1 1) 問い合わせ等の連絡先：

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護ケア技術開発学 講師 森岡典子  
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45  
電話：03-5803-5306 (例 平日 10:00-15:00)